

## 令和4年度第3回豊見城市総合教育会議

日時：令和4年11月28日（月）

定例教育委員会終了後

場所：豊見城市役所4階第1会議室

発言者等	発言内容等
総務課長	<p>皆様こんにちは。本日はお忙しい中、令和4年度第3回豊見城市総合教育会議にご出席いただき、誠にありがとうございます。本日、進行を務めさせていただきます、総務課の上原と申します。よろしくお願いいたします。</p> <p>初めに、資料の確認をお願いいたします。会次第になります。よろしくお願いいたします。</p> <p>本会議は、議事録をまとめることを目的にICレコーダーで録音いたしますのでご了承よろしくお願いいたします。</p> <p>地方教育行政の組織及び運用に関する法律第1条の4第3項において、本会議は地方公共団体の長が招集することになっておりますので、これより先の進行におきましては、市長の徳元が行います。徳元市長よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>皆様こんにちは。本日はお忙しい中、令和4年度第3回豊見城市総合教育会議にご出席いただきまして誠にありがとうございます。日頃から本市の教育行政の推進に格別なるご理解とご協力を賜りますことを心より感謝申し上げます。</p> <p>11月8日に豊見城市長に就任した徳元次人でございます。教育委員の皆様と教育行政について親密に協議・調整を図ってまいりたいと思っておりますのでぜひよろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、議事に入る前に、改めて総合教育会議の概要について確認したいと思っておりますので、事務局からのご説明をよろしくお願いいたします。</p>
総務課長	<p>まず、この総合会議につきまして、私のほうでご説明させていただきますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>地方公共団体の長と教育委員会との連携、強化を目的といたしまして、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4の規定により設けております。所掌事務といたしましては、今年度策定しました教育大綱の策定です。教育を行うための諸条件の整備、その他地域の実情に</p>

	<p>関する教育、学術及び文化の振興を図るため重点的に講ずべき施策についての協議、児童生徒、生命または身体に現に被害が生じ、または、まさに被害が生じるおそれがあると見込まれる場合など、緊急の場合に講ずべき措置についての協議、構成員の事務の調整となっております。</p> <p>本日の会議におきましては、「地域の実情に応じた教育、学術及び文化の振興を図る重点的に講ずべき施策について」に該当しております、「豊見城市教育施策について」を議題として本日実施しておりますのでよろしくお願いいたします。</p> <p>新たに就任した徳元市長のほうから、豊見城市の教育行政、教育施策に対する考え方を述べていただきまして、教育部のほうから現在の教育施策について説明いたしまして、教育委員の皆様と意見を交換するという流れで進めさせていただきたいと考えております。説明は以上でございます。</p>
市長	<p>ありがとうございました。</p> <p>では、今、お話がありましたとおり、私からも市長として豊見城市の教育施策についての考えを述べさせていただきたいと思えます。</p> <p>私自身も4人の子どもを持つ父親の立場から、上は高校3年生で次男、三男が高校1年生、中学校2年生と、大分間が離れて5歳の娘がおりますけれども、父親としての観点から、これまで市の教育についていろいろ深く興味がありまして、やらせていただきました。その前は3期12年、しっかり議員として豊見城をよりよくするために力を尽くしてきたつもりでもあります。この市長選における選挙の間にも、私は教育にかける政策をいくつか並べていますので、そのことをお伝えさせていただきたいと思えます。</p> <p>まず初めに、英語教育の特化でありますけれども、もちろん全国的に沖縄県内でもどの市町村も英語にはやっぱり力をつけていただきたいというような独自のオリジナルを持ったことを展開しているところもあると思うんですが、私としては、社会に出たときに、英語ができるかできないかで年収が変わってくるというデータも、もちろんありますが、そういうところも見据えて、使える英語力というものも、もう少し英検とプラスそういうTOEICに、それが評価にはなってくるんですけども、そういうところを身につけていただいて、話せる、聞けるということについては、やっぱりビジネストークにつながっていくということをお話させてもらいましたので、そこに結び付くような豊見城で小中学校出て、高校、大学に進学ということのプロセスのなかで、少し他市とは違ったスキルが身に付くのであれば、尚更いいなという思いで英語教育</p>

の特化を付けさせていただいていますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。2つ目については、稼ぐ力を身に付けてもらおうということもそうですけれども、今、お仕事体験等々でもいろいろあるとは思ひます。でも実際、社会に出て行ったときに、突然割り当てられた企業さんに「こんにちは」って行って1日体験させても、なかなか全体像は見えないわけですし、実務に添った学び方というの、もう少し形を変えたらうまく子どもたちでもキャッチはできるんじゃないかなということも含めて、稼ぐとは何なのかということも少し、いろんな観点から学んでいただきたいということも掲げさせていただきました。あとはICTリテラシーの向上、これは当然、今の子どもたちはスマホを持って当たり前という子たちの時代がそういうふうになっていますので、いくら制限かけても一定程度年齢が達すると持っている子のほうが多くなってきます。これが実情でありますから、であればGIGAスクール構想そのものが、そうです、社会に出ていくまでにはPCを当たり前に触れて、これですべて表現ができるということも資料を作るという意味で、ということ念頭に置いてスタートしていることもありますので、それを自ら生きていく中のスキルの一つにとられていただきたいというGIGAスクール構想の下に、もっともっとICTリテラシーを上げる必要があるんじゃないかということがあります。これのネックはやっぱり子どもたちというよりは、今の教育現場の先生方の理解力を子どもたちにICTを通してお伝えをしていただけるということが、現場の課題なんだろうなということも含めて、どうクリアするのかということ議論しながら進められたらいいなと思ひています。4つ目に関しては、マネーリテラシーの推進とあるんですけれども、金融教育のことです。我が国自体、この金融教育については、すごい低レベルだということも言われていますので、世界と渡り合っていくというグローバル人材を目指していくのであれば、そこのお金とは何なのか、金融とはどう回っているのか、社会の実像を早い段階からやるといいんですが、その子たちの年齢に合わせたところから理解力を持ってもらうということが非常に大事だと思ひていますから、そこも掲げさせていただきました。あとはハード面で物理的なことになるんですが、給食センター、子どもたちの食の安全の担保というのは非常に喫緊の課題にはなっているかと思うので、築37年、今日午前中も行かせてもらいましたけれども、もうきつい状態にガタついている給食センターでありますので早く建て替えなくてはいけないし、2分化しなくてはいけないだろうと、全国的には4,000食作るのがベストだろうと言われていたなかで、8,000食を超えている

	<p>ところをずっとやり続けているので、しかも老朽化したあの施設ですつとこの先も、豊崎中学校が令和6年の4月に開校するとなれば、作る量はそんなに変わらなくても、コンテナが増えたり、食器が増えたり、やっぱりそういう管理も業務的には増えていくので、今の現状で果たしてできるだろうかというのがまだ見えていないなかで、大変危険視しているところのほうが大きいんじゃないかということがあるので、そこは力を入れて新たな展開を早急に見出さなくてはいけないだろうと思っていますので、以上、5点私は、市長として今この教育における、通常の学力の向上はもちろんのこと、プラスしてこういうことができればいいなと思っています。今、私がお話をさせてもらったところについては、現場の先生方の特に教員の皆さんの多忙化というのも理解はしていますので、この英語力の特化とICTリテラシー向上、金融教育については、外部講師の活用をうまくできないかというふうなことで考えています。予算も限られたなかではあるので、その費用もですね、社会貢献の一つとして企業がやっていただけることをイベント的な単発ではなくて、経常的に継続していただけるような展開が事業として構築できればいいだろうと考えていますので、そこに向けて進めてまいりたいと私は思っていますので、よろしくお願い申し上げます。</p> <p>以上が、私からの説明になりますので、それでは現在の豊見城市における教育施策の取り組みについてご説明お願いしたいと思います。</p>
<p>教育長</p>	<p>それでは、教育委員会のほうから現在の教育施策について教育委員会が開催している関連施策について説明をいたします。</p> <p>まずは、英語教育の特化ということでしたけれども、現在実施しているJTE、小学校それから8校に対して年間110時間の授業を補助してもらっている状況、JTEに関しては小学校英語活動委託業務で行っております。次に、ALTに関して3中学校では、3名のALTの教員を派遣しております。1日3、4時間というところになっています。それから英語ストーリーコンテストの子どもたちの指導に関して放課後等を活用させてもらっています。それからイングリッシュサマースクールということで、市内在住の中学生を対象とした夏休みの開催を行っております。英語教育資質向上のための授業改善の助言、例えば、ゆたか小学校英語専科による公開授業等、小学校においても素晴らしい先生がいらっしゃるなかで、そういうことも進めております。それから国際交流事業として、ハワイ・豊見城村人会の交流、今年度はオンライン交流で11月13日に実施いたしました。今後英語力アップということで、英検の助成はできないかどうか。それからALTの活用をもっと柔軟に活用す</p>

ること、それから子どもたちとの対話時間を増やすこと、それから英検に向けての受験対策等も含めてうまく活用できないかどうかというところが今後課題になるかなと思っております。それから、英語検定ドリルソフトの導入、世界で活躍する方々の講演会、学力向上推進事業等の活用を通して進めていきたいと考えております。

2番目に、進路・就職の選択枠を広げ、稼ぐ力を身に付けるというところでは、今現状では、小学校においては職場見学、中学校においては職場体験学習、高校はインターンシップという名前でそのまま職場に行っております。それから中学校においては、企業人講話、職業人講話ということで、地域コーディネーターを通して各学校へ派遣してお話を聞いてもらっているというところでは、

次に3番目に、ICTリテラシーの推進としては、ICT機器活用、資質向上のために事業改善、指導助言等、本市指導主事による巡回指導というところと情報モラル講演会学力向上事業の一環として教員、保護者に対して行っております。生徒に関しては、総合の時間等を活用して、情報モラルに関しては毎年4月に実施されているというところでは、

それから4番目のマナーリテラシーの推進については、金融教育の授業としては、小学校において各学年に合った各教科单元ごとにその都度実施されているところでは、教材研究及び授業実践がこれからは求められていくことだと考えております。それから新たにマナーリテラシーということで、金融教育講演会等を実施できないかというところで、民間を活用した講師を派遣してもらったりあるいは継続して定期的にそういう教育ができればなというふうに考えております。

それから給食センターに関しましては市長がおっしゃったように、現在機器を整備しながら、ぎりぎりのラインで給食を準備しているのかなという感じですがけれども、やっぱり新規としては、基本構想を次年度PFI活用した事業等を計画して、基本計画、実施計画、用地買収建設等の検討に入らなければいけないのかなというふうに考えております。それから最後ですがけれども、同じくICT活用です。教育現場ということで、GIGAスクール運営支援整備事業としては、ICTに関する研修、教職員を対象とした研修等、積極的にできればなということです。それから情報指導員の配置に関しては、今のところ各小学校に、5名で巡回派遣をしております。それから学校ホームページの充実と速報化、学校通信、お知らせ、お便り等のペーパーレス化、学校によっては既に対応しているところもありますけれども、まだ全学校がそれは実施でき

	ていない状況にありますので、そこの改善も必要かなと。それから新規に関しては、欠席届、連絡等に関して、朝の多忙化解消のためにも学校、保護者間の連絡ツールとしてオンラインの活用を来月12月5日のほうに、説明会を予定しているというところで今、現在そういう形で進めております。よろしくお願いします。
市長	ありがとうございました。それでは、ただ今の内容やその他の豊見城市の教育施策について教育委員の皆様のご意見ございましたら伺いたいと思いますが、いかがでしょうか。
大城委員	はい、じゃお願いします。時間もあんまりないと思いますので、初めに、徳元市長、就任おめでとうございます。
市長	ありがとうございます。
大城委員	教育長からいろいろありましたけれども、私の意見として学校訪問をこの前やったんですけれども、11校を回ってですね、非常にICTの機器が使われて子どもたちも授業に集中して大変素晴らしいなと感じました。この教育にお金をかけただけのことはあるなと思いました。学校は非常に頑張っています。そのためにもぜひ学校支援員の数をできるだけ可能な限り増やしてもらわないと、学校の先生方の負担は益々大きくなるなという意見です。それからもう一つ、これも会議なのであちこちで意見として私出しているんですけれども、保育園、幼稚園、こども園等々の保育士の給料が学校の先生方に比べて安いんですよ。だからこれも豊見城だけでできることじゃないかも分かりませんが、少しでも賃金アップを図ってほしいなとお願いしたいと思います。以上です。
市長	ありがとうございます。今の支援員というのは、SSSスクールサポートスタッフを含めた各種支援員のことですね。
大城委員	はい、そうです。
市長	ありがとうございます。
大城委員	以前に比べてかなり多いんですよ。支援する子どもたちが。
市長	2番目は保育士の賃金ですね。これはご意見として賜っていいですかね。はい、ありがとうございます。ほかに。はい、お願いします。
下條委員	初めまして、下條と申します。よろしくお願いします。私も英語の教員を長らくしておりました。英語教育の大切さ、同感なんですけれども、英語教育の特化というところで、先ほども教育長のほうからありましたけれども、英検とかTOEICを受けられること、子どもたちが受けられるようにということも市長のほうからもありましたんですけれども、何か補助とかは考えられていますか。英検結構高かったりとかするんで

	すね。それについて。
市長	そうですね。そこは考えています。
下條委員	<p>そこをやっていたらなと思います。あと、給食センターを建て替えるということなんですけれども、ハード面をお願いしたいのですけれども、同時に食に関する栄養価、食の栄養価は上がっているんです。近年豊見城市は上がっているねってことで、周りの市町村の人からも評価を受けているんですけれども、この美味しくなったねという声も聴かれるのでそれを維持していただくことと、あと、子どもたちの中に、こういうふうになったらいいなという小学生が書いたものの中に、給食は無償化していただければなということであったので、そういった面も取り組んでいただけるのかどうかということ、住みよい、ますます住みよい街になるように。</p> <p>あと1点、特別支援ということもあったんですけれども、実は私も今、特別支援の今専門をしております、大学のほうで。個別の支援はとっても大事なと、今言った支援員ですか、あるんですけれども、やっぱり集団支援もすごく大事になっておまして、多層支援で取り組んでいただかないといけないなと、ますます増えるだけなので、そちらのほうもプログラムベースで多層支援の特別支援に取り組んでいただければなと思っております。以上です。</p>
市長	はい、分かりました。英検については今言ったように、英検をベースとしてほしいこれぐらい2級、準2級に近づくとするとTOEICに移行したほうがいいのか、どこを支援したほうがベストなのかみたいなこともまだ、調べなくてはいけないなと今思っている段階なんですけれども、入り口が英検のレベルでそこから先に行った子たちにはTOEICに背中を押してあげるとかという方向が今、流れとしてあるのかな。
下條委員	英検とTOEICとはまた別のものなので。
市長	ジュニアTOEICかなと思っています。
下條委員	何に向かって何のために取るのかというのでTOEICだったりTOEFLだったりいろいろあるので、そちらをまた何がいいということでは、まだ大学入試を考える場合は英検だとちょっと不利があるので、英検準2級を取ると入学で、この子にとって何が大事なのかは別だと思っんですね。なので、それも含めて補助をいろいろ出していただければ受けやすいかなと思います。
市長	そうですね。そこは効率性を担保できるように公平性を。給食無償化

	<p>についてはもちろん私は無償になれば絶対家計の負担もあるし、いいなと思っていますので、今、県知事がそれを訴えていますので、1日も早くやってほしい立場であります。その保護者にとっても子どもたちにとっても県の補助でやろうが、市の補助でやろうが給食が無償になれば目標達成だと思えますので、そこについては他市町村と違う再編交付金がない豊見城のなかでは、非常に財源の捻出が厳しいというのは明らかでありますので、県の知事の公約がどこに居ても沖縄県離島でも全員無償にするということを掲げていただきましたので、それを1日でも早く実現するようにそこは協力体制を当然力強くやっていきたいと思っています。</p>
下條委員	<p>今、英語のことは、CEFRという資料があるので、ちょっと調べてもらって。CEFRです。それで難度とかが図れると思うので。給食費は分かりました。</p>
市長	<p>あと、小学校でしたか、学習支援員のことですか。</p>
下條委員	<p>はい。</p>
市長	<p>大分その課題も伺っていますので、この間、教育長からも聞きました。小学校は結構ハードなんですよね。はい、分かりました。</p>
下條委員	<p>特別支援を個別支援だけではなくて、集団支援も含めた多層支援での支援をお願いしたいなと思っています。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。その他ございませんか。 はい、宮城先生お願いします。</p>
宮城委員	<p>宮城です。よろしく申し上げます。市長の今日のお話で、教育に対する熱い思いも聞かせていただきました。ありがとうございます。やはり、教育についていろんな視点で進めるといえるときに、私が思うに、やはり学校現場の先生方の意見というのは、大切にすべきだなというふうに思っていますので、ぜひ学校現場の先生方の意見も、どこかで聞いてまとめるというのかな、こういうことをしたいというときの視点に添った先生方の意見というのもぜひ、いろいろ聞いていただいて、そして行政と現場とうまく連携をしながら実現に向けて進めていただけたら大変ありがたいなというふうに思っております。先ほどの市長の言葉にもありましたように、学校現場は非常に多忙です。そういう中において、やはり一つ一つ実現していくというところにおいての一番近道かなお互いの意見を聞き合うということを感じています。</p> <p>あと1点は、豊見城市は非常に特別支援教育に関しては、ずっと以前からいろいろ努力をして現在の形が出来上がっているかなというふうに</p>



	<p>私は思っています。陸上競技場にある、とよむ教室もしかりなのですが、本当に向こうの力というのは非常に大きいなというふうに思っています。それと併せて、やはり学校現場に必要な特別支援員の配置であったり、人数がかなり採用したくてもいないという不足であると聞いているんですが、ぜひ特別支援教育のほうも引き続きよろしくお願ひしたいなというふうに思っています。よろしくお願ひします。</p>
市長	<p>宮城先生、どうもありがとうございました。まさに教員の皆様からご意見を伺うということは非常に大事でして、実際、私たちは教育の現場に日頃いないので、子どもたちと接するにあたり、どんなことが課題で、常に時代は流れるのと一緒に、今年の課題と来年の課題は違うというのは違って当然だと思いますから、そういったものの解決を導き出していくには、やっぱり現場の先生方の声を拾わないとだめだなとは私も思っていますので、これからも機会を見つけて意見交換ができるタイミングがあればやっていきたいと思っています。今言った、とよむ教室で榎本先生がいらっしゃっていて、私の息子たちが小学校の時にお世話になった校長先生でもありまして、そのつながりがあってたまに伺わせていただいていくんですが、2年、3年前でしたかね、このとよむ教室から卒業された子が防衛大学校に進学したということの話を聞いて、先生も嬉しそうに喋っていたんですね。そういうの聞くと、やっぱりいろんなところに可能性があるなと思っていて、やっぱり改めて、とよむ教室の大切さを実感したところでもありますので、そこもしっかり実績も踏まえて支援が続けられたらなと思っています。</p>
備瀬委員	<p>市長の力強い言葉に元気に非常に私自身も元気をもらえるような状況でありますけれども、英語教育の特化というのがイの一番にありますけれども、そのなかで国際交流事業というのがありますが、今ハワイとの交流が長年続いておりますけれども、本当に豊見城市の子どもたちが世界に羽ばたくような、そういう人材育成をどのようにやれば実現していくのかというものを、私、今、構想は十分持っていませんけれども、やっぱり沖縄にはそれが必要なだと世界のウチナーンチュ大会を見てもそうだし、豊見城から世界に羽ばたくたくさんの若者達、そういう人材の育成それに向けてまた市長の考えもね、またいつか聞かせてもらいたいなと感じます。もう一つは、教職員の働き方改革が今、叫ばれていますけれども、ある市町村では1学級を基本40人ですけれども、これを30人学級にした県内の学校があります。それができればもっと教員のほうはゆとりを持って指導ができると。そうすることによって子どもたちへ</p>

	<p>の学力向上を含めていろんな場面で成長していくんじゃないかなと考えられます。確かにたくさんの予算が伴いますけれども、それが実現できたら豊見城市はさらに子どもたちが伸びていくんじゃないかと感じます。そしてまた、以前の学校評議員制度のほうがコミュニティ・スクールに変わるというものがあります。これにも大きな期待もしております。まだこれが今、途中ではあるんですが、そういうものについてもこれは学校だけじゃなくて地域との連携というのが叫ばれていますので、その辺も教育委員会だけじゃなくて市長部局のほうも関連してくると思いますので、それも含めて私のほうからは軌道に乗せるような取り組み、教育委員会も頑張りますけれども、ぜひまた連携ができる部分に関してはやっていただきたいなというのを考えております。3点だけですけれども、また今後いろいろな機会がありますので、よろしく願いしたいと思います。以上です。</p>
市長	<p>はい、ありがとうございます。1つ目の国際交流事業は私も前から本当にいいなと思っていて、一度止めた時期といたしますか、それもあって再開したというタイミングも聞いておりますので、ただ、人数が限られているので、もうちょっと多くの子どもたちにチャンスがあってもいいのかなと。非常にいい事業だからゆえにですね、そう思っていました、やっぱり彼ら彼女らの話を聞くと、行く前の心構えと行ってきた後は全然格段に違っていましたし、その後の追跡調査もしていますから、その事業を体験してどこに進学したかとか、どのようなところに就職したかとかそういう足跡が分かるようになると、後輩たちにもしっかりつながるなと思って非常にいい事業だから継続する必要性は十分にありますし、これはぜひ私としても続けていきたいと思っています。ただ、あともうちょっとチャンスを広げられるようなことがどうすればできるのかなと。予算以外の手段で可能性があるのかなとかですね、そこは役割的にも担っている部分があるのであれば、私も一生懸命取り組んでまいりたいと思っていますので、よろしく願いしたいと思います。</p> <p>今日は、私は初めての総合教育会議なので、委員の先生方とお目にかかれまして、いろいろ考えもメモさせていただきましたので、それを踏まえて今後、教育長とともに進められたらいいなと思っていますので、ほかに意見交換する、今後はもちろんあると思っていますので、そこに向けて。今日はこの辺でいいんですかね。大丈夫ですか。</p>
備瀬委員	<p>せっかくですから、大城委員からもあったように、私が教育委員になってから2か年半が経過しています。初めて学校訪問がありました。</p>

	<p>同じように、子どもたちは元気です。コロナ禍でもよく頑張ってきたなって。それを11校拝見もして、本当に僕らのほうが元気をもらえました。子どもたち、やっぱり強いんだなって。同時に先生方の頑張りもすごいんだなって。またその縁の下のほうでは教育委員会の事務局の皆さんの頑張りとか、本当にみんながうまく機能している。それで子どもたちのほうがより元気になって学力向上、スポーツの面でも頑張っている。本当にいろんな面でいい方向に、いい方向に、今、動いている最中ではないかなと。この子どもたちをみんなの力で伸ばせたらいいなと個人的に思ったりもします。この間の学校訪問、事務局にも感謝ですが、ちょっときつかったんですけれども、11校というのは。いい学校訪問だったなと言私も言いたかったです。以上です。</p>
市長	<p>ありがとうございます。その後訪問されている特に中学校は今、東部、中央、西部ということでちょうど3つに、豊崎ができたらまた別ですけれども、3つあるんで、なんか特色みたいなのは違ったりしますか。先生目から見て。結構ありましたか何か。</p>
備瀬委員	<p>学校によっての特色？ やっぱり違うね。本当にあいさつがとってもすごい。学校言いたいけれども止めておきましょうね。本当にみんなが並んで、我々が元気をもらうぐらい大きな声で「おはようございます」「おはようございます」本当にそういうところもありますね。また、逆に声が小さいな、もう少し声が欲しいなというところもあるし、授業に関しては、本当に先生の目のほうに集中して向いている子もいるし、学級全体が、学校全体がすごい姿勢がいい。教育規律ができています。学校によっても少しは違うところもありますけれども、全体的に非常に良好と思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。</p>
宮城委員	<p>一つ付け加えてもよろしいですか。</p>
市長	<p>はい。</p>
宮城委員	<p>先ほどからお話ししているように、本当に学校訪問ができて大変よかったですと思っています。事務局はじめ計画していただいてありがとうございました。中学校で言えば、いわゆる共同体制ということで、各中学校とも生徒会がかなり積極的に動いていて、今言っている校則であるとか、そういうのも全部含めて、生徒会を中心に子どもたちが自主的に意見が言える体制づくりが各中学校とも出来上がりつつあるなということを感じました。これはすごく数年前から比較すれば子どもたちの自主性というか協同性というかそれをすごく感じる学校訪問でした。小学校も</p>

	それぞれ校長先生を中心に特色のある学校づくりができていて、本当に数年前に比べるともちろん学習指導要領も変わったということもあるんですけども、そこに向けて先生方、校長先生を中心に努力されているなというのがすごく伝わる学校訪問でした。
市長	ありがとうございます。この子どもたちが生徒会を中心にまとまりつつつか、自主的に何かやろうとか、自分たちの思い出づくりにももちろんなるんでしょうけれども、学校のために何かみたいなアクションも僕も少し感じたところがあるんですけども、ひと昔前と違って表現、言葉の使いとといいますか、選ぶ言葉というのが格段によくなっているなと、あ、あの背景としては何かあるんですかね。
宮城委員	いろんな言葉を知るようになった。それもありますよね。パソコンとか、それがかなり大きいかなと。
市長	使い方ですね。弊害だけではなくて。
宮城委員	外からの情報もかなり大きいのかなと。
市長	やっぱりそうですよね。
宮城委員	それをうまく教育にまたつなげていくつか。
市長	はい、分かりました。
下條委員	私も学校訪問に行かせていただいて、子どもたちのすごく学力が平均的に高いなと豊見城は思っていて、すごく先生方が頑張ってくさっているんだなと分かりました。ただ、私が実際ある学校でいくつか学校で取ったアセスメントでは、子どもたちは自分の学力が高いのにもかかわらず、それをあんまり感じていないという効力感とかそういうのがまだ低いので、あと、ちょっと気になったのが、豊見城はほかのところよりも先んじていろんな学び場を認めていただいて、すごい素晴らしい取り組みをされているんですけども、不登校がどうしても各学校課題になっておりまして、なので学力も高いんですけども、誰でも行きたくなるような学校づくりが今後必要になってくるかなと思います。これは先生方のお気持ちだけだったりとか、スローガンだけではちょっと厳しくてちゃんとしたプログラムというのがあるので、それにのっかって皆さんがやっていくと、いろんな都道府県にその事例はあると思うので、そちらをやっていけば、せつかく日本一子どもの比率が多いので、そちらを取り組んでいただければ学力も高いは、学校もみんな来るはってことで素晴らしい教育環境になるんじゃないかなと思っております。以上です。
市長	そうですね。不登校の復帰のプログラムを。

下條委員	誰もが行きたくなる学校。予防的な支援も含めてですね。
市長	ありがとうございます。
備瀬委員	やっぱりどの学校も課題の一番目に心因性の不登校それを挙げていましたね。不登校対策。遊び非行型は課題は少ない。これは他市町村もそうですが、やっぱり各学校とも不登校の数が多いと。この辺も大きな課題でしょうね。
市長	はい、分かりました。貴重なご意見本当にありがとうございます。 ではこの会議での議題は以上となりますけれども、その他、ご質問だとかご意見ありませんでしょうか。よろしいですか。はい、ありがとうございます。 それでは会議は以上となります。令和4年度第3回豊見城市総合教育会議を閉会したいと思います。皆様、大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。